

3 効率的な行財政運営

(4) 未収金対策の強化

現状と課題	未収金残高については、19 年度決算時に 796 億円あったが 30 年度決算では 403 億円と着実に圧縮している。 これは、未収金対策について、副市長をトップとする大阪市債権回収対策会議等による P D C A⁹⁸サイクルの観点に立った進捗管理や総括的指導のもと各債権所管において未収金対策の取組が強化されたこと、市債権回収対策室が実施する各所属で対応困難な高額事案や重複滞納事案の滞納整理が進んだこと及び各所属の徴収ノウハウ向上のための取組が各債権所管に浸透してきたことによるものである。 元年度においても、当初目標を 1 年前倒しで達成したことにより、未収金残高目標を 393 億円と改めたうえ、引き続き取り組んだ。 なお約 400 億円の未収金が存在することから、引き続き未収金残高の圧縮に向け、未収金対策を推進する必要がある。																				
戦略	未収金対策は、歳入の確保はもとより、市民負担の公平性・公正性の確保からも不断に進めていくべきものであり、今後とも継続的なモニタリングの必要もあることから、これまでどおり「新たな未収金を極力発生させない」「既存未収金の解消」の 2 本柱で全市的な未収金対策の取組を継続する。																				
取組内容	①債権別行動計画に基づく未収金対策の取組 未収金残高の圧縮に向け、大阪市債権回収対策会議のもと、より一層の進捗管理及び総括的な指導等、これまでの未収金対策の取組を引き続き徹底する。 ②「O J T⁹⁹による徴収事務担当者の育成」等 各所属の徴収ノウハウの維持・向上のための取組について、継続して実施する。																				
めざすべき状態	市民負担の公平性・公正性が確保され、新たな未収金を極力発生させない、並びに債権回収及び整理により既存未収金の解消が図られた状態。																				
目標	未収金残高 <table><tr><td></td><td>〈当初〉</td><td>〈設定〉</td><td>〈変更〉</td><td>〈実績〉</td></tr><tr><td>2 年度</td><td>386 億円</td><td></td><td>635 億円</td><td>479 億円</td></tr><tr><td>3 年度</td><td></td><td>437 億円</td><td>378 億円</td><td></td></tr><tr><td>4 年度</td><td></td><td>373 億円</td><td></td><td></td></tr></table> ※ 5 年度の目標は 3 年度実績を踏まえて大阪市債権回収対策会議において設定。 (30 年度実績 403 億円) (元年度実績 397 億円) ※未収金残高目標については、大阪市債権回収対策会議において、当該年度目標の変更要否及び翌年度の目標設定を実施。2 年度目標については、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた市税において大幅に未収金が増加する見込みとなったため、下方修正。また、3 年度目標について、2 年度実績を踏まえ、3 年度の未収金が大幅に減少する見込みとなったため、上方修正。		〈当初〉	〈設定〉	〈変更〉	〈実績〉	2 年度	386 億円		635 億円	479 億円	3 年度		437 億円	378 億円		4 年度		373 億円		
	〈当初〉	〈設定〉	〈変更〉	〈実績〉																	
2 年度	386 億円		635 億円	479 億円																	
3 年度		437 億円	378 億円																		
4 年度		373 億円																			

⁹⁸ 施策・事業に必要な要素である企画 (Plan)、運営 (Do)、評価 (Check)、改善 (Action) を一貫した流れのものとして捉え、それらを循環させることで、以降の施策・事業の改善に結びつける手法。

⁹⁹ On-the-Job Training の略。職場の上司や先輩が、部下や後輩に対し、日常的に職務のあらゆる場面を通じて業務に必要な知識・技術・技能・態度などを、計画的・継続的・反復的に指導し、習得させるもの。

取組スケジュール

	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度
①	検証・改善しつつ	継続実施		
	・ 8 月 大阪市債権回収対策会議	・ 8 月 大阪市債権回収対策会議	・ 8 月（予定） 大阪市債権回収対策会議	・ 8 月（予定） 大阪市債権回収対策会議
②	検証・改善しつつ	継続実施		

（凡 例）制度設計等： ----->

実施 ———>